

太陽系を一網打尽

この7月の西空には、水星、金星、火星、土星が集合して、とても賑やかでした。金星、火星、土星は高度も高くて明るいので楽勝ですが、この時期の水星は比較的太陽からの離角が小さいので結構見つけるのが難しいです。それでも、条件の良い時を狙って広角レンズで地上を入れて撮影すると、地球も含めて5惑星を1コマに収めることができます。と、ここまでは普通の話ですが、一方で、深夜の空に眼を向けると、木星、天王星、海王星が比較的近くに集まっていて、これまた広角レンズ1コマに3惑星を撮影することができます。ということは、この時期は、一晩で全ての惑星をたった2コマに収めることができる珍しいチャンスでもあるのです。

そこで、7月18日の晴れた空を狙って、早速に挑戦し、撮影できたのが、下の写真で、一晩で全惑星を撮ることができました。

本当は準備をきちんとして撮影に臨めばもっとクリアな写真を撮ることもできたのですが、まあ、とりあえず目的は達成したということでよしとしています。

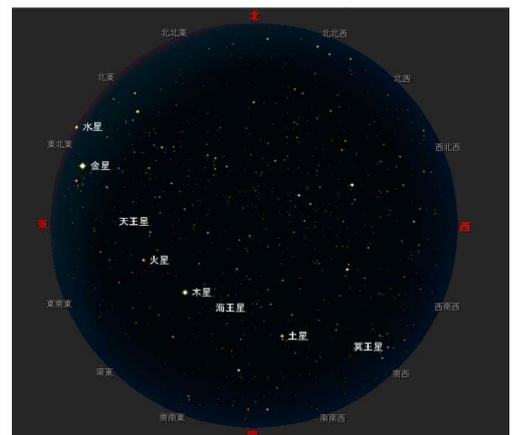
さて、このような、4つの明るい惑星の会合というのは、比較的チャンスが少ないものです。調べてみると、次は2011年5月に、水星・金星・火星・木星が半径10°以内に集まるときがありますが、明け方の薄明時の東天低くの現象なので、果たして見えるものかどうか、そして、その次は2015年10月になってしまうようです。

では、5惑星というとうどうなるのでしょうか。ということでステラナビゲータをアニメーションで動かしながら探していったら、2022年7月4日に下図のように惑星が並ぶのを発見しました。これはぜひ全周魚眼レンズで撮りたいですね。でも12年も先の話ですが。(^_^)



そういえば、昔、惑星直列なんて現象が世間を賑わせたことがありましたね。

閑話休題、それにしても、皆さんはどのように対応されているのか、デジタルになってからの悩みの種なのですが、広角レンズで星野写真を撮ると、どうも、レンズの性能とCCDやローパスフィルターとの相性が悪いらしく、盛大に偽色が発生します。明るい星は良いのですが、微光星になると、星の色が赤や緑や青になってしまって、とても鑑賞には厳しい状況です。今回の撮影でも、海王星がピンク色になっています。とても悲しい・・・



メカが大好き 双眼鏡のこと

今月の天文ガイド誌の広告欄を眺めていると、比較的高額な双眼鏡がたくさん紹介されていました。例えば、Vixen の ALTES 8.5×45 が 162,750 円、Nikon の EDG 7×42 が 222,600 円、Kenko の OP 8×42 が 90,300 円といった具合です。対物レンズが ED になったり、高性能のコーティングが施してあったり、旧来のアクロマートレンズにマルチコーティングといった製品群とは一線を隔したものとなっています。

これだけ一度に出てくるといのは、バードウォッチングとか、天文以外のところで大きな需要があるのでしょうか。趣味性の高い製品で団塊世代を狙っているのかな？ どれだけ違うものなのか、ぜひ、何かの機会に、比較して星を見てみたいものです。

さて、天文ファン御用達の双眼鏡といえば、やはり 7×50 で、自分も Nikon のトロピカル (左) を使いつづけてきましたが、1kg 余りという重さは少々悩ましいものでした。

そんな中で、Yahoo オークションで手に入れたのが、同じ Nikon の 7×42 DCF (右) です。まだダハプリズムが珍しかった頃の、結構古い型の双眼鏡ですが、それなりに造りが良くて使いやすい機材です。そして偶然なことに、その双眼鏡の出品者は、かつて天文誌で素晴らしい星景写真を披露されていた U 氏であったことも驚きでした。

以来、星見に出かけるときには、常にお供にして、星空観望に活用しています。



Books&CDs J・P・ホーガン氏のこと

J・P・ホーガン氏の SF のことを知ったのは、大学生の頃で、確か月刊 ASCII に紹介されていた「星を継ぐもの」の書評でした。以来、新しい作品が出版される毎に購入してはその作品世界を堪能してきました。でも最近、新しい作品の翻訳も減ってしまって、(というか、海外の SF の翻訳自体が目減りしているような状態で) とても寂しいなあ・・・と思っていたら、去る 7 月 12 日に同氏が逝去されたとの報がホームページに掲載されていました。

ホーガン氏の作品は、確かに、少し偏ったところもあるのかと思いますが、現在の科学技術を土台にして、その延長線上で大ボラをふいていく痛快さは、他の作家には無い真骨頂でした。そのホーガン氏の作品がもう読めなくなるとは、とても

残念です。願わくば、同氏の未翻訳の作品を少しづつでも文庫本化してほしいと思います。

ということで、J.P.ホーガン氏の邦訳全 29 作品であります。



編集雑記

先の惑星の撮影では、高速道路の無料化を活用して旧宮川村まで撮影に行きました。自宅から 30 分で現着し、そこは満天の星空です。バックグラウンドの暗さがぜんぜん違いますね。

だがしかし、機材を組み立てたものの、赤道儀とタイマーの両方が電池切れで、撮影ができず、いったん撤収して、結局三瀬谷まで 5 Km 戻ってコンビニに電池を調達しに行くはめになりました。

事前の準備は怠り無くしなくてははいけません。それから、車のバッテリーから電源を取れるような工夫もしないとね。

Kz_Wada / 和田一人